

令和4年度の学校評価

本年度の重点目標		① 安全で安心できる学校づくり ② 個に応じた教育活動の充実 ③ 学校からの発信力の強化	
項目(担当)	重点目標	具体的な方策	留意事項
小学部	「笑顔あふれる小学部」を目標に、円滑で明るい人間関係の育成や自立に向け、学校生活や日常生活を意欲的、主体的に過ごすことができるよう、個に応じた支援を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や相手を思いやる気持ちなど、円滑な人間関係やコミュニケーション能力の育成を、学校生活全般をとおして支援する。 ・児童一人一人の課題や目標について、保護者や職員間で共通理解を図り、身辺処理能力や学習面の向上に向け、長期的視点で支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的な挨拶や返事、報告など、社会生活を営む上での基礎的な能力を更に高めていく。また、みんなのために積極的に活動した児童を評価し、周りの児童が素直に「ありがとう」とお礼が言えるようにする場面を多く取り入れることで、友達を思いやる心や明るい人間関係を育成する。 ・学年会等で個別の課題を検討し、具体的な支援方法について保護者と共通理解を図る。特に自立活動での取組をとおして個のニーズに応じた支援方法を児童に係る全職員で情報交換を行い、児童がどの場面でも同じ目標で支援・指導が受けられるようにする。
中学部	生徒一人一人の事態を把握し、将来の進路を見据えて、その子が身に付けてほしい力を考え、教育活動の充実を図ることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から挨拶や名前を呼ばれた時にしっかりと返事をすることや、友達と協力して物事に取り組むことで、学校生活を楽しく過ごすことができるように支援する。 ・生徒の活動の様子などを保護者に積極的に発信し、学校の取組や生徒の様子が分かるようにすることで、家庭と連携して課題に取り組めるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の名前を呼んで挨拶をすることで、生徒自身が挨拶をすることの大切さに気付けるように支援することで、コミュニケーションの向上に努める。 ・学校活動の様子を写真や映像として見ることで、自分の活動を振り返ったり、保護者にも発信したりすることで、生徒の成長の様子や課題を確認しながら、学校と家庭が協力して生徒の成長を一緒になって取り組めるようにする。
高等部	卒業後の進路を見据えながら生徒個々の働く力、生活する力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・コース別の指導、行事などをとおして卒業後の職業生活、社会生活、家庭生活に必要な力を伸ばす。 ・生徒一人一人の実態や特性に応じた的確なアセスメントを実施し、生徒の課題や支援方法を学校、関係諸機関、家庭とで共有した指導、支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの新型コロナウイルス対応を踏まえ、生徒にとって見通しがもちやすく教育目標を効果的かつ効率的に達成できる行事や教育活動を検討する。 ・全コースで実施される自立活動の時間における指導についてPDCAサイクルに基づいた実践を進め、職員のアセスメント力の向上と個に応じた指導・支援の充実を図る。また、校内研究等を活用し実践や成果を職員間で積極的に共有することで、職員一人一人の指導力・支援力・授業力の向上を目指す。 ・部全体で組織的に支援を検討したり、対応したりできる体制を構築する。また、保護者、関係機関との連携を積極的に図る。
訪問教育	校内及び関係機関と連携し、あらゆる支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関との連携を図り、健康状態等の把握に努める。 ・次年度の転校に備え、今年度の学習充実と転校準備の支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭が利用している訪問事業と事業所の見学をさせていただき、密に相談できるよう体制を整える。 ・転校に関して関係校と連絡を密にとり、保護者に不安が生じないように細やかな支援をする。
総務	分掌内での業務に関する作業が効率よく進むようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム等の作成に関して、手順表だけでなくプリンターの使い方も引き継げるようにマニュアルを作成する。 ・校内LANを活用し、効率よく業務が進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌の協力も得ながら、画像や動画で作業工程をわかりやすくする。 ・年間計画表を作成し、見通しをもって作業ができるようにする。 ・問題等が生じた場合は速やかに連絡や報告を行い、対応策を考える。記録を残し次年度に引き継げるようにする。

教務	一人一人の障害特性や発達段階に応じた指導・支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントと PDCA サイクルに基づいた目標を設定し、効果的な指導や支援方法、教材教具を選定し、実践を重ねていく。 ・45分授業への変更に伴い、課題に柔軟に対応し、職員間の共通理解を図り、効果的な指導・支援方法を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・J☆s Kep アセスメントの詳細な方法を提示し、複数の職員でアセスメントを行い、適切に実態把握を行う。個に応じた支援方法を探り児童生徒の発達を促す。 ・日程変更の課題については、活動内容を工夫し、職員間で共通理解を図りながら、その都度対応する。安心・安全を基盤とした実践を通じ児童生徒の成長につなげられるようにする。
自立活動	自立活動の指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の情報交換のシステムについて検討し、運用に向けて準備を行う。 ・高等部総合コースに時間の指導を新設するにあたり、スムーズに運用が始められるよう整備を進める。 ・全校研修を実施し、職員の専門性を高められるようにする。 ・自活ライブラリーのデータを更に充実させるとともに整理し、より見やすく使いやすい内容に編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校の情報を収集し、負担感が少なくかつ使い勝手の良いシステムを構築していく。 ・他校の情報を収集したり教務部と連携したりしていく。 ・職員アンケートも参考にし、実践に活かせる充実した内容の研修を計画する。 ・自活ライブラリー原稿依頼を全校に行う。また、必要な情報がすぐ見つかるような検索システムを構築する。
教育支援	地域のニーズに応じた支援を進め、特別支援学校のセンター的機能の向上を図る。 校内支援の充実を努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小中学校及び、高等学校への相談活動において、ニーズに合わせて児童生徒の実態や障害の特性に応じた支援ができるよう、情報提供を行う。 ・本校及び各校の特別支援教育コーディネーターの専門性の向上に努める。 ・地域の関係機関との連携を大切にし、支援会議の実施やスクールカウンセラー等の活用により、児童生徒の多様な課題にチームで支援できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談等においては、事前に対象児童生徒についての資料をもとに支援方法を検討し、ニーズに合わせた情報提供ができるように準備する。 ・研修内容等の情報共有をし、専門性の向上に努める。 ・必要に応じて、関係機関やスクールカウンセラー等との連絡調整を行い、会議や相談が円滑に実施できるようにする。
研修	校内研修の充実を図ると共に、校外研修やeラーニング研修についても推進し、職員の専門性の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容や新型コロナ感染状況を考慮しながら、全体研修の実施方法について臨機応変に対応していく。 ・校外研修だけでなく、eラーニング研修など校内で受けられる研修について推進する。 ・全校研究で自立活動の時間における指導についての2年目の実践に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容によって、情報教育部と協力リモートでの実施をしたり、保健部と協力し感染対策をして全体が集まったりして全体研修を行う。 ・校外研修やeラーニング研修の集約をし、メソフィアや掲示板等で積極的に勧める。 ・自立活動部と連携し、年度始めに自立活動についての講義を実施したり、全体研修でも自立活動の研修を設けたりして職員の専門性の向上に努める。
図書	本を楽しんで読んだり、学習に利用したりするきっかけを持てるよう支援する図書室を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で本と親しめるような教材づくりと職員への周知 ・授業で活用しやすい本の紹介 ・多くの児童生徒や職員が図書室の蔵書に触れる機会作り ・図書室行事の企画の改善と継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の希望に沿った読み聞かせ等の教材を充実させ、授業に利用し易い本をメソフィアなどで紹介するよう心掛ける。 ・教科会・分掌会・委員会等と連携を取り、図書室の蔵書を知ってもらえる機会を作るよう工夫する。 ・図書室行事では、児童生徒の興味関心に沿った活動や教材を準備するよう意識する。
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを中心とした情報発信力の強化 ・児童生徒タブレット端末の活用促進 ・情報機器環境の整備と 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを刷新し、学校情報の効果的な情報提供手段を確立する。 ・タブレット端末で授業に資するアプリや周辺機器の整備、活用方法の情報提供を行う。 ・老朽化した機器の進展や調整、 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校におけるホームページのニーズを踏まえ、閲覧者に必要な情報が提供できるものを念頭に構成を進める。また、引継ぎ可能な簡便なシステムの構築や構成に留意する。 ・児童生徒用タブレットの有効的な活用が広がるよう研修機会を設定し、また活用情報を発信する。同時に、自宅での学習に活用できるよう手続きの準備を行う。 ・昨年度のサーバーやコンピューター室の整備

	進展による校務の円滑化を促進	情報機器等の貸出品の再考と整理により、指導者の業務の効率化に結び付ける。	に続いて、パソコンやプリンター等の整備を進める。特に、新規の機器や技術を設置することに加え、有効的な活用が広がるよう情報提供や支援等コーディネートを行う。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 安全指導の充実を進める。 生活の手引きの見直し、全職員で共通理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難生活をする上で必要な物品を充実させ、避難所設営のマニュアルを作成していく。 時代にあった校則等になっているかなどを見直す。見直した生活の手引きを部会などを通して職員間で共通理解していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難生活を想定し、必要な物品を選定した上で、定期的に購入を依頼していく。シミュレーションしたりしながら的確な役割分担を考え、マニュアルの作成を進めていく。 LGBTQ に対応した表記になっているのか、時代にあった校則になっているかをしっかりと検証し、変更していく。部会でしっかりと共通理解し、職員で児童生徒への支援に差がないようにしていく。
保健	<ul style="list-style-type: none"> 校内の感染拡大防止に努める。 食に関する指導の充実を図る。 施設・設備等の安全管理の徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員への感染症予防の意識を高められるようにする。 食に関する指導内容の選定を行う。 危険個所を早期に発見し、けがへの防止に努められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全体に感染症の手引きを周知し、感染症予防対策の徹底ができるようにする。 保護者にアンケート調査を実施して、結果を全体計画に反映させる。 食に関する全体計画、食育年間計画等を職員への共通理解を図る。 定期的に安全点検を実施して、全職員に危険個所の周知を図る。 けがにつながった事例を職員に周知し、児童生徒のけが防止への意識を高められるようにする。
進路指導	<p>児童生徒や保護者が、卒業後の進路選択をするために必要な情報の提供を充実させる。</p> <p>新たな実習先や就労先の開拓を積極的に行い、地域の企業の理解を高めたり、生徒個々に合った進路先の情報を提供したりできるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学部 5・6 年生の保護者対象の進路説明会を行い、高等部の実習の動画を紹介することで、早い段階から卒業後の進路先について考えるきっかけを作る。 中学部、高等部についても、学年や担任と共通理解を図り、進路説明会や個別懇談会などを通して時期に合った情報を提供する。 長期休業中などを利用し、高等部の職員にも協力を仰ぎ、進路開拓を行う。 生徒の実態や障害者雇用への理解を高めてもらうために、地域の企業を対象に学校見学会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なサービス形態の事業所の動画を紹介し、実際に見学に行くことの大切さを伝えると共に、小学部段階でつけておきたい力について伝え、保護者と学校が協力して支援できるようにする。 地域で行われる障害福祉サービス事業所の説明会の情報を提供したり、パンフレットの閲覧と進路相談ができる機会を作ったりして、保護者に積極的な参加を促す。 個別懇談の際、担任が時期に合った情報を提供し、支援の共通理解ができるように職員への情報提供を行う。 企業の所在地や仕事内容などを検討し、実際に生徒が通うことのできる可能性が高い企業を選定し、効率よく進路開拓を行う。 より多くの地域の企業が見学会に参加してもらえるようにハローワークや障害者就業・生活支援センターにも協力を仰ぐ。
学校関係者評価を実施する 主な評価の視点		<ol style="list-style-type: none"> ① 児童生徒の健康や環境を適切に管理し、健康で安全な学校生活を送れるようにする。 ② 教員研修の充実を図り、質の高い教育活動を提供する。 ③ 児童生徒一人一人を見据え、個に迫った目標を設定し、教育活動を進める。 ④ ホームページをはじめとする情報提供ツールの充実を図り、迅速で丁寧な情報提供を行う。 	